

## 略歴

福田 幸市

ふくだ こういち

## 演題

印象採得後の印象体の取り扱いから作業用模型製作までの要点

## 抄録

近年のデジタルテクノロジーの発達により、歯科医療の分野にも歯科用CAD/CAM システムや口腔内スキャナーを用いた光学印象採得法が普及しつつあります。

現在は、アナログからデジタルへの移行期であり、将来は歯科補綴装置の多くがSTL データなどによって製作されるでしょう。

しかし、現段階では補綴装置製作の多くは口腔内の状態を正確に再現した模型上で行われ、それは歯科医師・歯科衛生士による印象採得に始まります。

この過程での完成される補綴装置の良否は、印象採得とその後の印象体の取り扱いに大きな影響を受けます。

何故なら、精度の高い作業用模型を作る為には、診療室で採得された印象体を変形させずに石膏模型に置き換えることが必要だからです。

それには、採得後の印象体を処理し速やかに石膏泥を注入すること、注入する石膏泥の混水比を一定に保つこと、硬化までの印象体の置き方に注意することなどが挙げられます。

そこで、今回

- ①トレーから印象体のはみ出ている場合の処理
  - ②注入する石膏泥の混水比を一定にする工夫
  - ③印象体の置き方の工夫
  - ④院内歯科技工室における感染対策
- などについてお話しします。